



## 広島女学院大学の 設置者変更に至る道程



広島女学院  
院長 三谷 高康



私たちは人生の中で数知れない多くの事柄に出会います。繰り返し起こる習慣的な事柄を「日常的な出来事」と呼び、めったに起こらない印象的な体験は「特別な出来事」と捉えています。例えば、毎日の通勤は日常的ですが、通勤中にアイドルに出会ったら特別な出来事と言えるでしょう。そのなかでも、個人の人生を大きく変える「幸運な出来事」や、社会を変える「意味ある出来事」はそう多くありません。私たちキリスト者はそうした極めて稀な出来事との遭遇を「奇蹟」と呼び、神の御旨と理解してきました。

今回は広島女学院大学の設置者変更に至る道程をお伝えし、そこに働く神の御業つまり「摂理」について触れてみようと思います。それは、まさに「奇蹟」としか言いようのない極めて稀で幸いな出来事だったからです。

広島女学院大学は戦後、広島で最初の私立大学として英文学部英文学科の一学部一学科のみの小規模女子大として発足しました。その後、短期大学を併設し、さらに短大を4年制に昇格させ、人文学系と家政学系の二学部体制となり、その規模のままで「昭和」を乗り切りました。しかし、「平成」に入り学部学科に人気の陰りが見え、加えて少子化と女子大離れの影響で経営は年を追うごとに困難を極めていきました。

勿論、手を拱いていたわけではありません。改組も幾度か行い、加えて経営改善や入試戦略も常に練り直し、何とかV字回復を試みました。

教職員も力を合わせて現状を打破しようと懸命になって取り組みました。

大学は7年に一度、高等教育機関として基準に適した運営を行っているか評価機関から認証を受けることになっています。今年度はその年にあたります。10月16日に「基準協会」の实地調査団が本学を訪れ、前もって提出した膨大な報告書をもとに2日間の調査が行われました。学生たちへのインタビューも調査に組み込まれていました。最終の全体会議の時、調査委員長から「教員と学生のお互いの思いやりの深さに感動した」というコメントをもらいました。私たち大学側は今までの教育が間違っていなかったと自信を深めましたが、一方で素晴らしい教育も偏差値第一主義のこの国の大学受験風土では魅力ある大学として認知されない現実を痛感させられました。

今後の経営の難しさを考えると、いかなる最終判断を取るべきか2024年4月14日の臨時理事会において議論されました。

ところが臨時理事会終了直後のことでした。

校地の有効活用を相談していた大手不動産会社から「是非、広島女学院大学を設置者変更で譲ってほしいという学校法人があるが、どうか。」という打診が飛び込んできました。相手側は専門学校を多角的に経営する京都の学校法人YIC学院です。

早速、交渉が始まりました。教職員の雇用の確保と、設置者変更までにマイナス収支が出たならば先方が負担する等、また、広島女学院ゲース幼稚園も同様に移管することも併せて、基本的な条件を提示しつつ基本合意書を取りまとめ、さらには譲渡契約書の締結まで、わずか3か月のスピードで作業が進みました。その間、教職員への説明会を幾度も開催し、また在学生や保護者の理解を求めるために説明会を繰り返しました。

2025年2月末に文部科学省へ設置者変更の申請を行い、9月5日に文部科学大臣の認可が下り、1年半にも満たない短い期間で設置者変更の一連の作業は終了したのです。

2026年度(2026年4月1日)から広島女学院大学と広島女学院ゲース幼稚園の設置者は学校法人YIC学院へと移ります。一方、学校法人広島女学院は中学高校のみの法人として教育活動を継続します。

また2027年度から大学名は「YIC学院大学」へと変わり、新しい学部学科に男子学生も入学する共学校へと変貌します。YIC学院の地域社会に貢献する実践教育と広島女学院大学の歴史と伝統の中で培った人格教育とを結合した新しいタイプの大学として、広島の地で高等教育の使命を担い続けていくこととなったのです。

神の御旨である「摂理」は私たちの思いと違っていても、希望は必ずそなえて下さる。そう思うと、今回の設置者変更に至る道程はまさに「奇蹟」であると私は受け止めています。

## これからの歩み

## 大 学

副学長 田頭 紀和

広島女学院大学は、長い歴史の中で、キリスト教主義に基づく人格教育を柱に、「ぶれない個を育む教育」「一人ひとりの人格を尊重する教育」「丁寧に寄り添う指導」を教育の根幹として、多くの卒業生を社会に送り出してきました。こうした教育の信念は、時代が変化しても揺らぐことはなく、今後も本学の礎として受け継がれていきます。

本学はこの伝統を大切に守りながら、新しい時代に応える学びを実現するため、2026年度より設置者を学校法人広島女学院から学校法人YIC学院へ移管し、2027年度には大学名称を「YIC学院大学」へと変更し、新たな歩みを進めます。この改組にあたり、「共に創ろう、未来を。」を大学の将来像を示す言葉として掲げ、「好きを自信に、そして強みに」という学びの考え方を、教育の中心的なメッセージとして位置づけています。

卒業生・保護者の皆さまにお伝えしたいのは、これまで築いてきた教育環境や学修支援が今後も確実に維持されるという点です。教員体制、教育課程、学習環境、奨学制度等は在学期間を通して継続され、2026年度入学生までは従来どおり本学の卒業生として認定され、OGとして登録されます。これまで大切にしてきた教育の価値は、今後も学生の成長を支え続けます。

こうした教育の継承を大切にしながら、2027年度以降の本学は、時代や社会の要請に応える大学へと進化していきます。その中核となるのが「共創」という考え方です。学生と教職員に加え、地域の人々とも知識や経験を分かち合い、共に学び、共に成長する学びの環境を整えます。また、女子大学から共学の大学へと移行し、性別・年齢・国籍を超えた多様な人々が集い、学び合うキャンパスを実現します。

2027年度には学部・学科の改編を予定しています。国際英語学科と日本文化学科を統合した「国際文化学部 国際文化学科」では、観光やポップカルチャーなど現代社会に求められる領域を含む学びを展開します。「生活デザイン学科」では、建築・インテリア・ファッションに加え、デジタルデザインやメイクなどを取り入れ、デザインを通じた課題解決力の育成を強化します。また、「児童教育学科」は2027年度より「子ども教育学科」へと名称を変更し、多様化する社会に対応する新たなコースを設けます。「管理栄養学科」においても、食を通じた多様なビジネスに対応する学びを展開します。

さらに、ICTを活用した教育機関間の連携や留学生別科の設置構想を通じて学びの多様性と国際性を高めるとともに、地域連携PBLやフィールドワークなどの実践的な学びを通して、学生一人ひとりの「好き」を、未来を切り拓く確かな強みへと育てていきます。

伝統を礎に、より多様で、より開かれた学びの場へ向けて、本学はこれからも、新しい価値と未来を創り続けてまいります。

## 中 学 高 等 学 校

校長 渡辺 信一

2026年度が140年目となる広島女学院の歩みも、創立以来大切にされてきた、キリスト教主義教育と女子教育は守られていきます。改めて、その意義を述べます。

「我らは神と共に働く者なり」。この学院聖句は、広島女学院の教育の根幹であり、創立以来どのようなときも変わることなく、最も大切にされてきました。これは、聖書のみ言葉に立ち、全てのことを成していくということです。すべての日の朝は、礼拝をもって始まります。教職員は、毎朝讃美歌を歌い聖書を読みます。生徒は、ゲーンズホールでの中学・高校ごとの礼拝、教室での放送礼拝、高校では高校チャペルでの学年礼拝のいずれかで朝が始まります。聖書のみ言葉に触れ、新しいものとされて一日を始めることは、強くなれという世の中の価値観を脱ぎ去り、「自分を愛するように隣人を愛せよ」とみ言葉に立ち返る場です。

「Chest Up!」。これは、初代校長ゲーンズ先生が、生徒たちにかけていた言葉です。胸を張って「自分の進むべき道」へ、自信をもって生きていく人を育てることを改めて思い、この言葉を使います。ゲーンズ先生が、女子の教育が大切であると思われた時代からは大きな変化がありましたが、依然として女子がその人らしく生きることには様々な壁があり続けて



## これからの歩み

います。中高時代に女子校で学び、人間としての自分を見、友人を見、そして自分を考えることが、何事にも軸のぶれない自分らしさを作っていきます。そこで培われた力は、すべての人が大切にされる希望ある世界をつくる力につながります。

中高6年間の教育のグラデュエーションビジョンとして、次の3つを掲げています。1「自分を知る 他者を知る 世界を知る」、2「確かな学力と幅広い教養」、3「平和の実現に向け、しなやかに自分らしく歩む力」です。キリスト教主義教育と女子教育の到達できる目標です。1については、グローバル教育のより深化した視点をもてる実践にとりくんでいきます。2については、教育に関する価値観が急激に変わる中で、生徒が自分で選ぶワクワクする勉強ができる環境をつくります。3については、いままでもたくさんのボランティア活動で、平和の大切さをつないできました。それは、一人ひとりの神様から与えられたものを活かす活動でした。これがより多くの人につながっていくことを祈ります。

これからの日本の少子化などの環境は、私立中高にはとても厳しいものです。その中ではありますが、健全は経営状況を守り、最適な教育環境を創出していくことも最大課題として取り組んでまいります。

## 幼稚園

園長 古重 歌織

大学・幼稚園の設置者変更という新たな歩み与えられるこの時、「ゲース幼稚園は変わってしまうのですか?」と不安や期待を込めて、さまざまな立場の方々からお声をかけていただきます。豊かな自然に抱かれた学びの場与えられ、それをこれまで守り、つないでくださった先達をはじめ、ゲース幼稚園に連なってくださったすべての人々の精神が、脈々と流れるこの場所。幼稚園のこれからの歩みを語る時、ゲース幼稚園は変わらなくてはならない存在なのでしょうか。

保育の営みの柱として三つのことを挙げるとすれば、一つ目は一人ひとりの子どもが自分らしくあることを保障され、信頼関係の中でつながり合い、互いの違いを認め合える経験が、繰り返し与えられ続けること。二つ目は、あらゆるものに命が与えられていることを知り、それらを大切にしながら日々を過ごすこと。三つ目は、保育に携わる誰もが、子どもたちの成長の見える部分のみならず、一人ひとりの内面の育ちに目を向ける視点を持つことです。

これらの柱を軸として、生活そのものを子どもたちと共につくり出していくことこそが、これから生きていく力の礎になると考えています。軸がぶれることなく保育を継続していくことは、これまで大切に受け継がれてきた精神を、これからも確かに引き継いでいくことに他なりません。

さらに今後は、広い視野をもって、世界中の人々の営みや出来事に関心を寄せ、多くの刺激を受けながらも、平和をつくり出す者としての学びを深める存在でありたいと願っています。我々に与えられている「変化の時」を成長の機会として前向きに受け止め、歩みを重ねていくことこそが、これからのゲース幼稚園に与えられた使命であると感じています。



繋がり合って



前に向かって

## 大学

## International Club: 国際交流 on Campus! (キャンパスで広がる国際交流) 国際英語学科 大崎 美佳

国際英語学科では、国際交流に関心のある学生や留学生を中心に、昨年度「International Club」が発足しました。キャンパス内で、グローバルな視点から多様な文化を理解し、コミュニケーションを楽しむ場をつくることを目的としています。

今年度も、昨年に続いて「Friendship Party」を開催し、かねてより交流のあるノースカロライナ州立大学の学生とのオンライン交流も行いました。Friendship Partyでは、留学生とお菓子を囲みながらの会話や、かるたゲームなどを

通して楽しく交流しました。留学生がどのような国や文化の背景をもって広島に来ているのかを知ることが、学生同士がお互いを理解し合う貴重な機会となっています。

また、6月には、世界各地を自転車で旅するイタリア人アクティビストのステファノさんをお迎えし、英語での質疑応答や講話を通して、学生たちは大きな刺激を受けました。

自分たちのアイデアから生まれたキャンパス内での国際交流活動が、今後も学生たちにとって異文化理解を深め、学びを広げていく素晴らしい機会となることを願っています。



Friendship Party 1



Talk with Stefano La Torre from Italy 1



Friendship Party 2



Talk with Stefano La Torre from Italy 2

## 日本文化フィールドワーク報告 ～山陰を旅する～

日本文化学科 足立 直子

2025年8月26日～27日、日本文化学科の学生13名と一緒に山陰地方の踏査に行ってきました。コースは出雲、松江、境港の歴史や文学ゆかりの地を巡るというもので、今年度は特にNHKの朝ドラで、小泉八雲とその妻セツをモデルにした作品が放送されるということもあり、大注目の場所を訪れることにしました。

まずは、八雲も愛した出雲大社を皆で参拝。大しめ縄に圧倒されつつ、事前に学んだ「二礼四拍手一礼」でお参りました。『古事記』で学んだ大国主神を思いながら、日本の神々を身近に感じたひとときとなりました。



出雲大社にて集合写真

その後は松江城や宍道湖、小泉八雲記念館などを見学し、最後は鳥取県の境港にある水木しげる記念館、その前に通る178体もの妖怪ブロンズ像が並ぶ妖怪ロードを楽しみました。神話から妖怪まで、日本文化の奥深さを改めて感じる事ができたFW。小泉八雲の好奇心やオープンマインドからも多くの学びがあったことと思います。



小泉八雲旧居



水木しげる記念館

## 地域の魅力×ブライダル業界探究 ～憧れをカタチに～

生活デザイン学科 桄崎 久美子

生活デザイン学科では2023年度より学生有志とブライダル業界探究プロジェクトを実践しています。ブライダル業界は在学生の関心が高く、就職先の一つとしても人気があります。そこでこのプロジェクトでは現場を体験したり、実物に触れたりすることで業界理解を深め、企画力をつけ、就職活動における強みにすることを目的として活動しています。2025年度は「和(なごみ)プロデュース」(広島市)と連携し、宮島という地域資源を活用した結婚式や披露宴の運営のお手伝いをしたり、オープンキャンパスでドレス試着体験の企画・運営をしたりしました。今後は地域貢献を踏まえたオリジナル

ブライダルプラン等を考え、「和プロデュース」とともに実践する活動を検討しています。また、包括連携協定の繋がりから京都YICビューティ専門学校より寄贈いただいたドレスを活用し、試着体験を充実させていきます。



衣装体験運営の様子



和プロデュースでの体験の様子



## 大 学

## 地域活性に向けた学生の取り組み ～学科の枠を超えた商品開発～ 管理栄養学科 妻木 陽子

今年度、管理栄養学科では他学科や企業との連携を深め、学生主体で魅力ある商品の開発に取り組みました。

NPO法人とらいあんぐるとの協働では、東広島産レンコンを観光土産にする「和美レンコンチップス」を企画。食品開発ラボがフレーバーを、生活デザイン学科の地域連携デザインセミナーがパッケージを担当し、いずれも1年生のアイデアから誕生しました。味は、広島名産の「ひろしまなレモン味」と、梅と味噌を合わせた「おつかれサマー味」の2種類です。

また、MOTTAINAI BATON株式会社との産学連携プロジェクトでは、管理栄養学科・児童教育学科・日本文化学科の学生が、コンセプト設計からレシピ、デザイン、販売戦略まで一貫して担当。「レモン香るさわやかアイリスカレー」

「トマトとチキンのひろしまふるさとカレー」の2種のレトルトカレーが完成しました。食品ロスや地域活性などの社会課題に向き合い、廃棄食材や過疎地域の食材を活用しました。あやめ(アイリス)の花言葉から、「未来に希望を届けたい」という学生の思いが込められています。



学生アイデアを商品化



地域イベントやあやめ祭で販売

## 子どもチャレンジラボが拓く学び ― かかわりを紡ぐ力の育成 ―

児童教育学科 加藤 美帆

児童教育学科では、「子どもチャレンジラボ」の活動を通して地域とつながり、保育者・教師としての実践力を磨く独自の教育活動を展開しています。

ラボのひとつである「絵本研究会」では、地域の子育てイベントに参加し、絵本の読み聞かせブースを出展しました。

来場した親子が大型絵本やしかけ絵本に目を輝かせ、絵本の世界にともなこころを遊ばせる姿から、絵本が親子の絆を深める豊かなコミュニケーションツールとなることを改めて実感しました。また、イベントでの臨機応変な対応を経験する中で、乳・幼児向けの絵本選びや読み聞かせの力をさらに磨きたいという意欲が高まり、改めて事前の内容理解

や読み慣れの大切さを実感しました。また、よりよいブース運営へのアイデアや気づきも生まれました。

児童教育学科はこれからも、地域とつながる実践的な活動の中で学生の意欲を育みつつ、保育者・教師としての資質・能力を磨く学びの機会を提供していきます。



地域の子育てイベントで読み聞かせブースを運営



イベント終了後の達成感とともに参加メンバーで

## 2025 秋季宗教強調週間

大学宗教委員長 栗津原 淳

10月14日(火)の「キリスト教の時間」では、JOCS元バングラデシュ派遣ワーカーであり、JAFS(アジア協会アジア友の会)理事、心療内科医でもある宮川眞一先生が、ルカによる福音書10章29～37節をもとに、「ともに生きるとは ～バングラデシュでの医療活動を通して～」と題してお話くださいました。「たまたま」という偶然の出会いや出来事が人生を形づくることの大切さを語られ、命の重み、出会いの意味、そして勇気をもって行動することの重要性を強調されました。

翌15日(水)の特別講演会では、前日のルカ書とイザヤ書2章2～5節から『一隅を照らす・・今の私たちにできること

～NGO・海外医療協力の経験を通して～』と題してお話くださいました。現地の厳しい医療環境とともに、「助ける」という一方的な姿勢ではなく、「ともに生きる」姿勢こそ大切であることが語られました。薬も機材も足りず、限られた条件の中で最善を尽くす先生の姿勢に、強さと優しさがにじみ出たお話でした。



宗教強調週間2025秋

## 大 学

## 第76回あやめ祭を開催いたしました

総合学生支援センター 事務課 課長 今井 妙

「第76回あやめ祭」は2025年11月9日(日)に開催され、雨天ながら1,300人あまりの来場がありました。今年のテーマは「Update～多彩な花よ咲き誇れ～」です。今年のゲストはシンガーソングライターの井上苑子さんだったので、歌声を来場者に聞いてもらうためメインステージを外に据えたことで、フォークソング部、ダンス部、アンサンブル・エスポワールの発表などもさらに盛り上がりました。生活デザイン学科の学生による恒例の「ファッションショー」、チャペルで行われた

聖歌隊のコンサートや、1年生による「大学探求活動」の展示は、ご家族の来場もあり大変な賑わいでした。クラブやゼミ、教職員も協力しての様々な模擬店や広島市就労支援センターのマルシェ、子ども縁日ブース、自治会アイリスが招いた専門業者による本格的おけ屋敷など、テーマどおり、咲き誇った多彩な花(企画)を楽しんでいただけた一日となったと思います。皆さまのご支援ご協力に感謝します。



模擬店は32団体が出店



1年生による「大学探求活動」発表

歌にダンスにゲーム、  
たくさんの参加がありましたあやめ祭の華  
「ファッションショー」

## ハロウィンフェスタ ～キラキラspooky night!!～ 開催

管理栄養学科 妻木 陽子

今年はハロウィン当日の10月31日に開催。キッチンカーも3台お呼びし、雨の中でも賑やかな1日でした。

ました。当日もメンバー同士が協力しながらスムーズに進行することができました。来年以降も、誰でも気軽に参加できる温かいイベントとして発展していくことを願っています。

## 生活デザイン学科 上河内 美咲さん

今年のハロウィンフェスタは、昨年よりも学生と教職員と一緒に楽しめる企画をさらに充実させ、大きく盛り上がりました。今年は、先生のコスプレを当てるクイズや、教職員の方々と写真を撮れるフォトイベントを新たに実施し、普段は見られない先生方の一面に触れられる貴重な機会となりました。これらの企画には多くの学生が参加し、会場全体に明るい雰囲気が広が



ハロウィンプロジェクトメンバー



職員もコスプレ姿で学生対応

## 2025 年度ゲース学術奨励賞

ゲース学術奨励賞は、本学の校母ナニ・ベット・ゲース先生の遺徳を偲び、建学の精神を体現し学業において優秀な学生に、各学科の4年生から1名ずつ授与するものです。

2025年度の実賞者は次の方々です。

## 人文学部

## 国際英語学科

Palma Rosemarie Ann Viray

## 日本文化学科

相原 歩海

## 人間生活学部

## 生活デザイン学科

Y. K

## 管理栄養学科

中村 晴香

## 児童教育学科

白木 桃香



10月7日 ゲース学術奨励賞授与式にて



## 中学高等学校

## キリスト教強調週間

宗教教育委員会 金 清洛

主題「うむいちなじー ー思いをつないでー」、主題聖句フィリピの信徒への手紙2章2節「同じ思いとなり、同じ愛を抱き、心を合わせ、思いを一つにして、わたしの喜びを満たしてください。」のもと、11月18日は主題講演と学年ごとの特別プログラムが実施されました。

主題講演の講師の小底京子さんは国立療養所沖縄愛楽園自治会長を務められ、沖縄愛楽園祈りの家教会の代表でもあります。沖縄愛楽園はハンセン病患者たちが安心して暮らすことのできる土地を自ら見つけ誕生させ、さまざまな逆境を乗り越えてこられたことなども講演されました。

学年別活動では、「思いをつないで」というテーマで、社会のさまざまな分野の講師の先生と出会い、具体的実践を通して考える時間を持ちました。礼拝委員・宗教委員主催による

お昼の集いの企画や、上空通路には、中学生の各クラスがこのキリスト教強調週間にかける思いをポスターにして掲示しました。

22日(土)の閉会礼拝では、各学年から2名ずつ主題講演と学年別プログラムを通しての感想を発表し、それぞれが得たものを分かち合い、この学びで得た恵みを共有しました。



主題講演講師 小底京子さん

## 中2長崎研修旅行

中2学年会

今年度から新たに中2での実施となった長崎研修旅行。10月9日(木)～11日(土)の2泊3日で行ってきました!1学期から積み重ねた事前学習での学びを深めるべく、初日は平和公園にてクラスで準備した千羽鶴を手にセレモニーを実施、爆心地公園で当時の様子を想像しながら心をひとつにお祈りを捧げました。また、平和講話として、8歳で被爆を体験した山川剛さんのお話を聞きました。

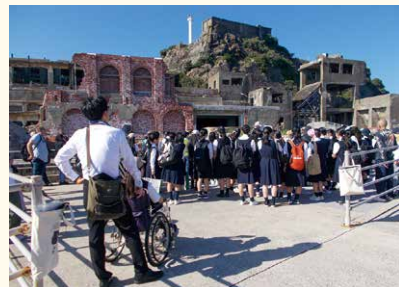
2日目は浦上地区研修を行い、永井隆博士の生涯について学び、カトリック浦上教会ではガイドの山口京子さんから、キリシタン弾圧や浦上天主堂にまつわる他では知りえない貴重なお話をうかがいました。また、軍艦島クルーズにも乗船しました。波の高さ等、条件がそろわないと上陸できないのですが、無事上陸できました。日本の

産業を支えた炭鉱の様子や、当時のままの建物をうかがうことができました。

最終日はお待ちかねのハウステンボス自由行動!まだまだ過酷な暑さの残る3日間でしたが、全行程を通して好天に恵まれ、予定した全てのプログラムを無事終了し、多くの学びを得ることができました。



原爆資料館(語り部による講話)



軍艦島

## 安芸高田鹿プロジェクト

探究活動推進委員会 安宅 弘展

有志生徒たちが、安芸高田市の鹿害問題に取り組んでいます。過疎化・高齢化が進む中山間地域では、鹿が増殖し、農地の被害などが深刻化しています。これに関心を持った生徒たちが、安芸高田を訪れて市役所や猟師・農家の方の話を聞き、できることはないか探し始めました。そこで今年の文化祭に「鹿肉料理を販売する新しい模擬店」を出店したのです。現在、仕留めた鹿の多くは廃棄されてしまっていることを知った生徒たちは、鹿をおいしくいただくことで廃棄を減らし、食べることを通じて鹿害問題を多くの人に知ってもらおうと考えました。生徒たちは鹿肉業者の方とメニュー・調理法を研究し販売にこぎつけました。文化祭当日、お客様の「これは

部活ですか?」との質問に「いいえ、有志生徒の課外活動です。女学院は、生徒がやりたいことをできる学校です!」と生徒が答えていました。用意していた鹿ソーセージと鹿そぼろを完売し、20万円以上を売り上げることができました。今後も活動を続ける予定です。



文化祭で鹿肉を販売

## 中学高等学校

## 文化祭

高校生徒会顧問 小田 仁美

11月2日(日)・3日(月・祝)に中高合同文化祭が開催されました。2日間での開催は14年ぶりとなります。2日(日)の午前中には、主日礼拝と開会式が行われ、開会式の中で、高校はマンドリン部と音楽部、中学はマンドリン部と合唱部の発表を全員で鑑賞しました。学校生活のなかで、全員でクラブの発表を見る機会は意外と少なく、友達の演奏に大きな刺激を受けた人もいました。午後には、ホールの一般公開と、校舎内では生徒を対象とした教室発表が行われました。校内のいたるところで、高校生が中学生をもてなす姿が見られ、中学生は高校生の姿にあこがれを抱いた様子でした。



HR発表で中学生をもてなす高校生

3日(月・祝)は全体を一般公開しました。今年の文化祭では、新たに中3五人委員と有志で喫茶店を出店しました。企画段階から生徒で作りあげ、内装にもこだわって、当日も多くのお客様で大盛況でした。天候にも恵まれて、笑顔の溢れる2日間の文化祭となりました。



中1をもてなす中3喫茶の店員

## 碑めぐり案内

グローバル教育推進部 野中 理恵

43年前に東京の女子学院の高校一年生と本校生徒の交流を契機に始まった「碑めぐり案内」は、今日まで大切に受け継がれてきています。今年度は、国内外から約500名、10団体のゲストを、中学2年生から高校3年生までの延べ約300人の生徒たちがお迎えする予定です。

コロナ禍で実施が難しい時期もありましたが、オンラインでの実施を試み、また卒業生の温かなご支援にも支えられ、歩みを止めることなく続けることができました。時間や場所の隔たりを超えて繋がるこの取り組みは、広島女学院の「平和を願うところ」を体現する活動として、確かな根を下ろしています。

4年間にわたり熱心に参加してきた高校3年生は、「様々な学校の方と交流し、沢山の平和観と

出会うことができた碑めぐりは、私にとって大切な学びの場となりました。」と感想を寄せてくれました。ヒロシマで学ぶ中高生としての使命感を胸に、生徒が主体的に取り組むこの活動のバトンを、これからもしっかりと繋いでいきたいと思います。



本校慰霊碑前にて



広島平和都市記念碑(原爆死没者慰霊碑)前にて

## 生徒の一票で決定! 新体操服デザイン

保健体育科 今田 英樹

根強いファンがいた現行の体操服を、2026年度より一新します。今回の新体操服は、「自分たちで学校を変えていける」という実感を持ってもらいたいと考え、生徒の皆さんにデザインを考えてもらいました。夏休み前にデザインの募集を開始したところ、200点を超えるデザインが集まりました。その中から5つに候補を絞り、全校生徒の投票によって、1年E組の安井果杏さんのデザインに決定しました。「シンプルかつ女学院を象徴する『あやめ』を取り入れることで、他にはない女学院らしさを表現し、みんなが着たいと思ってもらえるようにデザインしました」とのことです。

優れたデザインに加え、機能性も大幅に向上しています。

軽量で動きやすく、防風性に優れ、乾きやすい素材です。皆さんに愛される体操服になってくれると嬉しいです。

もちろん新入生だけでなく、在校生も着用することができます。新体操服を着て、元氣いっぱい体育の授業に取り組む皆さんの姿が楽しみです。



新しいデザインの体育着



## 幼稚園

## 満3歳児保育スタート

教諭 島 有里咲

2025年度から新しく始まった満3歳児クラスの保育。クラス名はそれぞれすみれ組とれんげ組に決まりました。この名前は、現在の女学院大学内施設であるアイリスガーデンができる前、その場所でゲース幼稚園が開かれていた時代に存在していたクラス名から取って名付けられたものです。

保育が始まって6か月。最初は涙が溢れていた子ども、徐々に自分の興味のある遊びを見つけて遊び出し、友だちの名前を覚えて一緒に遊ぼうと誘う姿が見られるようになりました。大好きなおうちの人と離れても、保育者や友だちの存在に少しずつ安心感を覚え、時には泣いている友だちを慰めたり助けたりと、優しく逞しい姿もあり、仲間とのつながりが深まる毎日です。

小さな子どもたちですが、その一人ひとりが神さまから与えられたその子らしさと、大きな可能性を持っています。これからどんな風に幼稚園生活を過ごし大きくなっていくのか楽しみに感じています。そして、私たち保育者も子どもたちに寄り添いながらも、一緒に成長し続けられる存在でありたいと思います。



ともだちみんな あつまれあつまれ

## 私はみんなの歯医者さん

教諭 加茂 真衣

ハロウィンの翌日、一人の女の子が「みんな!虫歯がないか見ましようね。」と言って登園してきました。周りの子どもたちが「急にどうしたの?」と聞くと、「ふふ!ちょっと待ってね!」と言って、何やらはさみでチョキチョキチョキ…。丸めた紙に短く切ったフルーツキャップを張り付けて、四角や丸に切った紙を顔に付けて手袋をしたら完成!「歯医者さんだよ!みんな昨日ハロウィンでおかしいっぱい食べたでしょ?だから虫歯がないかチェックしないとね。」「なるほど!だから歯医者さんになったのね。じゃあ私は看護師さんする!」と仲間が加わり、歯医者さんごっこが始まりました。

隣でままごとをしていた子どもたちも「ちょっと歯が痛むんです。この子も見てくれませんか?」と訪れ、気づけば評判の歯医者さんに。一人の子どものイメージが形となり、次々と繋がる遊びの輪。こうした日々の活動を通して、子どもたちの

創造性や想像力、社会性、役になりきる感情表現は遊びだからこそ培われ、これからの生きる力の土台になるのだと感じています。



順番待ちの患者さんたち



## 仲間とじっくり たっぷり ゆっくりと

教諭 古本 紗也

仲間と一緒に、保育室の広々とした空間を使って、じっくりと時間をかけて積み木の世界を広げています。「これいいね!」とお互いを認めつつ、「ここに作りたいからこれを移動させてもいい?」と自分の気持ちを伝えながら仲間と一緒に作り出していく中で、完成したときの喜びを分かち合ったり一体感を感じたりして、より一層安心感や信頼感が深まっています。安心できる仲間の存在があることで、積極的にその空間に向かい、じっくりと遊びに集中できる時間を過ごし、豊かな日々を送ることができています。また、考えを出し合って工夫し、様々な大きさのものを組み合わせることで遊びがより面白くなることも実感しています。そして、子どもたちと過ごしている中で、信頼できる仲間と共につくり出すものを共有できる

この時間は、かけがえのない宝物だと感じます。



広がる積み木の世界



## 幼 稚 園

## ゲーンズ幼稚園夏祭り

教諭 柳田 皓佑

8月下旬に幼稚園の夏祭りを開催いたしました。園庭には明かりがともった提灯、廊下には学生ボランティアが描いたポスター、各保育室には手作りの趣向を凝らしたゲームの数々、お絵かきコーナーやバルーンコーナー等いつもとは違う幼稚園の雰囲気子どもたちは目を輝かせていました。

今年は、久しぶりに飲食コーナーを再開することができ、カレー販売のキッチンカーや焼きそば屋さん、焼き菓子店やお米から作るスイーツ屋さんの出店もしていただきました。飲食店以外には前髪カットや玩具屋さんなど、沢山のお店が参加してくださり、祭りを盛り上げてくれました。

また、ホールには、ゲストとして早稲田盆太鼓さんをお招きし、力強い太鼓の演奏を聞いたり、音に合わせて盆踊りを踊ったりするなど夏の伝統

文化に触れて楽しみました。

在園児はもちろん、卒園児や地域の子どもたちもたくさん集まり、幼稚園の端から端までにぎやかなお祭りとなりました。

夏祭りで得た収益は、献金や園の教育充実の為に用いさせていただきました。



にぎやかなお祭り



大盛況バルーンアート

## 自然豊かな森とともに

教諭 白石 恵史

園に隣接している「ぼうけんの森」。季節、学年によっては日常的に森での活動を楽しんでいます。春から数回に分けて森で活動し、段々と森に慣れてきた年少児。初めは斜面を歩くことを怖がったり、泣いて保育者に助けを求める姿もありましたが、今では木の枝を集めて焚火ごっこ、枯れ葉を枝に刺してバーベキューごっこなどを楽しむ程になりました。怪我をしない転び方(尻もちをつく)やマダニの払い方など、身を守る術も身につけてきた子どもたちです。一方、昨今の大雨やイノシシなどの野生動物の活動範囲拡大等により、段々と遊ぶことが難しい場所も増えてきました。自然の力、変化にはかなわないことを念頭に置きながらも、神様の作られた

この豊かな森とどのように向き合っていくのかを問われている時なのかもしれません。



いい椅子みつけた

## クリスマス

教諭 今井 あい

「4本目がついたらクリスマスだね!」クランツの灯りを見つめ、1枚ずつアドベントカレンダーの扉をめくり、嬉しく待ち遠しいクリスマスが今年もやってきました。きらきらとした装飾のイメージとは異なり、クリスマスの始まりは貧しい馬小屋でイエスさまをこの世の中にお迎えしたこと。救い主イエスさまの誕生は人々の心にあたたかな灯りをともし、本当に大切なことは何かを教えてください。アドベントの期間は、クリスマスキャロルを歌ったり、大好きな家族にこっそりプレゼントを準備したりと、感謝と喜びに満ち溢れた日々を過ごしてきました。

12/13に迎えたクリスマス礼拝では、年長児は神様から与えられた役を大切に

演じ、年中、年少、満3歳児は聖歌隊としてページェントに参加しました。礼拝後は学年やクラスごとに祝会の時をもち、与える喜びも味わいながらプレゼントを渡して、親子で喜びを分かち合いました。世界中の人々にクリスマスの喜びと平和が行き渡りますように祈ります。



喜んでくれるかなあ



あなたがたのために救い主がお生まれになりました



## 法人

## 被爆80年平和祈念式

2025年8月6日、ゲンスホールにおいて被爆80年広島女学院平和祈念式を挙行いたしました。原子爆弾により犠牲となられた本学生徒・教職員330名を追悼し、恒久平和への祈りを新たにす厳粛な式典となりました。

式は献茶に始まり、折鶴献納、讃美歌、聖書朗読、祈祷と進められました。続いて、高校音楽部による合唱、院長式辞、追悼のことが述べられ、参列者一同、静かに祈りを捧げました。

合唱では、高校音楽部とともにゲンス幼稚園の園児たちが参加し、「主われを愛す(讃美歌461番)」を心を込めて歌い上げました。園児たちの澄んだ歌声と生徒たちの調和のとれた歌声が会場に響き渡り、平和への願いを共有する印象深いひとときとなりました。

その後、讃美歌、終禱をもって式典は閉会しました。被爆から80年という節目の年に、本校に集うすべての者が、命の尊さと平和の大切さを改めて心に刻む機会となりました。これからも学校法人広島女学院は、平和祈念式を大切に守り続け、祈りをもって平和を願い続けていく使命を担って参ります。



ゲンス幼稚園児と高校音楽部による合唱

## 139周年全学院研修会

2025年10月1日、広島女学院創立記念日にあたり、幼稚園、中学高等学校、大学の教職員がゲンスホールに集い、全学院研修会を開催しました。今年度は、三校部がそろって実施する最後の研修会となり、特別な節目の会となりました。

研修会は、広島女学院139周年を感謝する感謝礼拝から始まりました。これまでの歩みを振り返りながら、学院の使命と教育の原点を改めて心に刻む、静かで意義深いひとときとなりました。

第2部では、各校部より日々の教育実践や特色ある取り組み、今後の展望について発表が行われました。互いの実践を共有することで、学院全体としてのつながりを再確認するとともに、これからの教育の方向性について理解を深める機会となりました。

第3部では、卒業生である石河真理さんが制作された、広島女学院の歴史を振り返る映像作品「Here I am, The bloom of memory — 広島女学院の歴史 —」を鑑賞しました。創立以来の歩みと先人たちの思いに触れ、学院の伝統と未来への責任について改めて考える時間となりました。

本研修会は、学院のこれまでの歩みに感謝するとともに、次の時代へと歩みを進めていくための大切な機会となりました。



139周年感謝礼拝

## 設置者変更に伴う歴史資料館資料ほか寄贈物等の取扱いについて

広島女学院大学及び広島女学院ゲンス幼稚園の設置者は、2026年4月から、学校法人広島女学院から学校法人YIC学院へと移ります。

歴史資料館の建物は学校法人YIC学院に譲渡しますが、館内の貴重な資料、寄贈物等は、引き続き、学校法人広島女学院において管理して参ります。

学校法人広島女学院の本部となります上幟町キャンパスに、これらの資料等を移設する計画を検討しています。

検討案がまとまりましたら、改めて皆様にお知らせします。  
(管理部長 蒲原 靖男)

## 広島女学院報の今後について

1932年6月に「広島女学院新聞」が創刊され、1958年2月からは、「広島女学院報」に引き継いで参りました。

2026年度からは、発行形態を改め、電子発行を予定しています。

次回発行については、学校法人広島女学院ホームページよりお知らせします。  
(管理部長 蒲原 靖男)

## 次期院長選任

学校法人広島女学院は、第240回理事会(2025.10.31)において、次期院長として三谷高康氏(現院長)を選任しました。なお、任期は2026年4月1日～2028年3月31日の2年間です。

## 次期学長選任

学校法人広島女学院は、第239回理事会(2025.9.26)において、次期学長として渡部佳美氏(現大学人間生活学部長)を選任しました。なお、任期は2026年4月1日～2030年3月31日の4年間です。

## 人事

## 【採用】

武田 花帆	法人事務局管理部経営企画課入試・広報室職員 大学管理部経営企画課入試・広報室職員 入試・広報センター入試・広報室職員	2025.6.1付
新谷 理紗	総合学生支援センター事務課職員	2025.6.1付
松井 悠夏	総合学生支援センター事務課職員	2025.7.1付

## 【退職】

大和 満穂	法人事務局管理部経営企画課入試・広報室長 大学管理部経営企画課入試・広報室長 入試・広報センター入試・広報室長	2025.9.30付
権藤 昂子	法人事務局管理部経営企画課入試・広報室職員 大学管理部経営企画課入試・広報室職員 入試・広報センター入試・広報室職員	2025.11.30付

## 訃報

沖田 泰弘 様(元教頭、英語教諭)	2025.10.2
佐藤 恒雄 様(元大学教員)	2025.10.8
森澤 一由 様(名誉理事)	2025.11.14
河内 清志 様(元大学教授)	2021.11.26

※ご遺族のご意向により、これまで掲載を控えていただいております。

## 法人

## 寄 附

## 学校法人広島女学院のために

100,000円 湊 晶子

## 広島女学院大学のために

500,000円 株式会社タイヘイ

1,000円 萬谷 優佳

## 広島女学院大学(管理栄養学科)のために

100,000円 株式会社もみじ銀行

## 教育設備充実のために

100,000円 佐藤 智己

## 中高教育充実のために

60,000円 山地 佐和子

50,000円 谷本 優子

10,000円 前田 康臣

10,000円 広島女学院同窓会

## 中高平和教育のために

20,000円 前田 瑞枝

## 教育研究施設・設備の充実

30,000円 周藤 玲奈

30,000円 加藤 克規

25,000円 徳田 和美

## グローバル教育の発展・充実

25,000円 徳田 和美

## 国際交流のために

50,000円 久保田 満里子

## 広島女学院メソジスト女性局奨学金給付型として

1,000,000円 公益財団法人 ウェスレー財団

## ゲーンズ奨学金として

800,000円 広島女学院同窓会

## ゲーンズチャペルパイプオルガン維持のために

30,000円 日本オルガニスト協会西日本支部 寺岡 恵美

## ヒノハラホール食堂運営補助費として

1,000,000円 広島女学院大学 協力会

## アイリスセンター維持のために

600,000円 広島女学院同窓会

## VISHバスキャッチシステム年間利用料として

132,000円 広島女学院ゲーンズ幼稚園 みぎわ会

## 被爆ヴァイオリン保存のために

30,000円 伊藤 恭子

30,000円 大島 久美子

20,000円 社)ヒロシマ国際作家協会 代表理事 要田昭治

20,000円 新澤 艶子

20,000円 ピースポート

10,000円 濱崎 壽賀子

10,000円 広島女学院同窓会

10,000円 広島テレビ放送株式会社

10,000円 廿日市市立津田小学校PTA

5,000円 Peace Art Project inひろしま実行委員会

## 広島女学院大学のために 熊野筆 4本 広島日野自動車株式会社

## ヒノハラホール3階リノベーション

コクヨ 会議テーブル(固定式タップ含) 7台

CRES マルトル 14台

プラントボックス 4台

人工芝 一式

シューズボックス 2台

クッション 6個

自治会アイリス

## 音楽教育充実のために

マリンバ

電子ピアノ

芥川 直子

故 田崎 美香

## 生徒のために

銘板「被爆アオギリ2世」

書籍「ヒロシマの却火の中で」

杉浦 圭子

西村 陽子

## 生徒のために(高校邦楽部にて使用)

箏 5面

隈崎 寛

## 中高図書館へ

書籍「ウィリアム・メレル・ヴォーリズの建築」

書籍「ヴォーリズ建築の100年」

高林 真澄

## 歴史資料館資料として

レコード「広島女学院大学クワイヤ アメリカキャラバン」

パンフレット「広島女学院大学クワイヤ アメリカキャラバン」

高林 真澄

## ご寄附のお願い

本学院では、クレジットカード決済に対応したインターネットからの寄附金募集を行っております。

また今後は、広島版「学びの変革」推進寄附金を活用した「ふるさと納税」において、寄附先として本学院をご指定いただくことによるご支援も可能となります。

皆さまには、引き続き格別のご高配とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

詳細は学校法人広島女学院ホームページ(<https://www.hju.ac.jp/houjin/donation/>)をご覧ください。

お問い合わせ／総務室(会計担当)

TEL: 082-228-0387

こちらから  
アクセス  
いただけます

## 同窓会からのお知らせ

## 2026 年 ホームカミングデー

テーマ Chest up 平和の光を胸に時をかけるあやめたち

●日時: 2026年4月25日(土) 10:30~13:30

●場所: リーガロイヤルホテル広島

●会費: 10,000円

## 広島女学院平和祈念式

●日時: 2026年8月6日(木) 10:00~

●場所: 広島女学院中学高等学校ゲーンズホール

## 同窓会 バザー (中高文化祭)

●日時: 2026年11月3日(祝・火)

●場所: ゲーンズホール前テント

献品は一年を通じて受け付けております。  
同窓会事務局までご連絡ください。

## バイブルクラス (聖書を学ぶ会)

●日時: 毎月第4水曜日 10:30~(8月休会)

●場所: (2026年3月まで)広島流川教会  
(4月~)ゲーンズホール内 同窓会館

●講師: 広島流川教会 向井希夫牧師

お問い合わせ／同窓会事務局

TEL/FAX: 082-221-1059

月・火・木・金曜日 10:00~15:00

こちらから  
アクセス  
いただけます

## 編集後記

新しい年を迎え、年の始まりならではの目標や決意に触れる機会が多くなりました。思うように進まないことがあっても、小さな一歩を積み重ねることが、やがて大きな前進につながると感じています。また、一歩踏み出す勇気が新しい可能性や出会いを連れてきてくれると信じております。本年も日々の出来事や想いを大切にしながら、笑顔と成長にあふれたものとなりますよう皆さまと共に歩んでまいりたいと思います。

(幼稚園 久保木 裕子)